

令和元年度 日進北中学校 学校診断アンケートの結果①【生徒、教師、保護者】

<回答数> 生徒:359名 教師:32名 保護者:259名

A: よくあてはまる	B: どちらかと言えば、あてはまる
C: どちらかと言えば、あてはまらない	D: あてはまらない
E: 分からない、どちらとも言えない(無回答)	

① 進んであいさつをしている。(%)

	A	B	C	D	E
生徒全体	43	49	7	2	
教師	6	72	22	0	
保護者	22	49	20	3	7

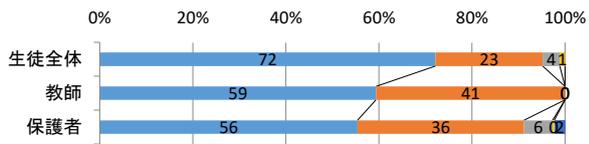


【考察】

・昨年度とほぼ同傾向の数値を示している。しかし、生活委員会や各学年委員によるあいさつ運動は、子どもたちのアイデアを生かし、行う回数も参加する人数も目に見えて増えており、「あいさつの大切さ」についての意識は高まっていると感じる。今後も発展的なあいさつ運動の展開を期待する。

② 体育祭や文化祭など、行事を楽しんでいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	72	23	4	1	
教師	59	41	0	0	
保護者	56	36	6	0	2

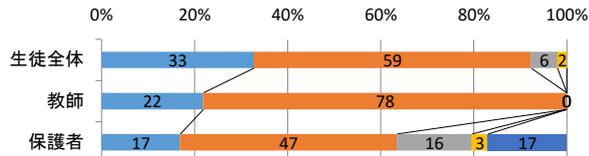


【考察】

・AB回答率が3者とも90%を超えたことはおおむね満足できる。体育祭種目のすべてをチーム対抗型にするとともに、縦割り応援を充実させ、全校応援や北中の舞を中心に据えたことで、「みんなで楽しむ体育祭」のコンセプトを強く前面に出せた。このことで上級生が先頭に立つ意識が高まり、ワンチームの雰囲気醸し出した。
・半面、登校できない子やみんなの輪に入りにくい子の存在も明らかであり、その子たちにとっては行事が重荷になっていることが考えられることを周知したうえでケアに努めたい。

③ 授業は、学びやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	33	59	6	2	
教師	22	78	0	0	
保護者	17	47	16	3	17

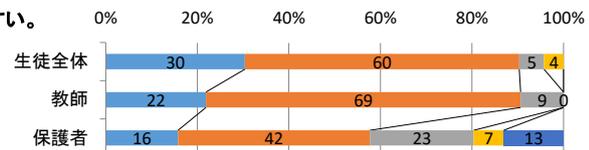


【考察】

・教師のAB回答率に対し、生徒、保護者のCD回答率が高く、相違があることに着目しなければならない。「学びやすい」の基準が不明確なことが起因しているとはいえ、毎日の授業についていけない、理解できていない子たちへ目を向け対策を講じることは優先課題である。
・学びやすい授業とは何か。落ち着いて授業を行うことができている今こそ、授業環境整備、教材の工夫、授業形態、展開の工夫等について研究を深めていかなければならない。今の北中が、「学ばせやすい」学校であることは間違いない。

④ 授業で分からないことについて、先生に質問しやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	30	60	5	4	
教師	22	69	9	0	
保護者	16	42	23	7	13

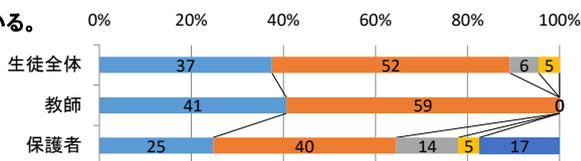


【考察】

・生徒のAB回答率が、78%⇒83%⇒90%と、3年間で上昇している。各学年が部活動の無いテスト週間に行っている「授業後自主学習」の成果が表れていると考える。自由に学習する場に先生がいて、友達と一緒に気やすく質問できる場であり、みんな楽しそうであった。日常的にも気軽に先生に質問できる風土につなげていきたい。
・一方、教員に時間的余裕がないという事実は依然として解決されていない。授業以外にも校務分掌があり、朝練習がなくなったといえ部活動は授業終了後すぐに始まる。特別な質問タイムを日常的に設置することは無理だが、1時の授業の中で子どもの「？」を拾い上げる手法、子どもにプレッシャーをかけずに「聞きやすい」という受容の身構え、等について改善、工夫の余地はあると考える。

⑤ 学校には、自分の気持ちをわかってくれる先生がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	37	52	6	5	
教師	41	59	0	0	
保護者	25	40	14	5	17

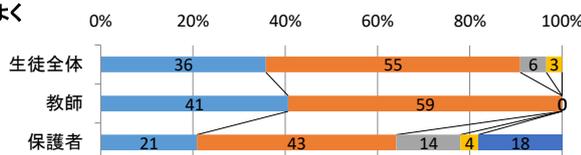


【考察】

- ・毎学期に全生徒と教育相談を行う活動は、生徒指導、生徒理解の柱として位置付け取組んでいる。事前アンケートも含め、いじめや子どもたちの悩みの早期発見に役立っている。しかし昨年同様に、11%の子どもたちが不満を持っている事実をしっかりと受け止めて、子どもに寄り添う姿勢を確認しなければならない。また、保護者のCD回答率が昨年度13%⇒19%と増えていることは見逃せない事実であり反省しなければならない。
- ・学校とは、1人の教師で成り立つものではない。十人十色の教師集団がワンチームになって一人一人の子ども、家庭に寄り添うことで、受容力を向上させることができる。
- ・「よい子」を演じて、声や態度を押し殺している子を前にして、誰かが気付いて、チーム学校として対処できる体制の強化を図っていく。

⑥ 先生たちは、自分たちが困っていることについて、よく取り組んでくれる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	36	55	6	3	
教師	41	59	0	0	
保護者	21	43	14	4	18

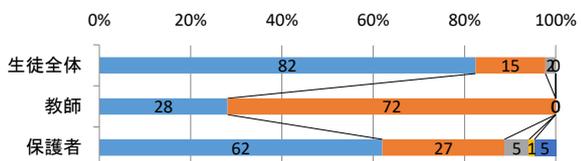


【考察】

- ・本年度も生徒のAB回答率が90%を超えており、概ね満足できる。今後も、報告、連絡、相談を大切にしたい。
- ・教師のAB回答率は、昨年度92%⇒100%となっているが、保護者の回答は昨年度と同じ64%である。このギャップの改善を図りたい。そのためには、学校の取組の情報公開を学年通信、学校だより、HP等の活用を通して充実させるとともに、保護者の意見、声に耳を傾ける場を大切にしていかなければならない。保護者、地域とのコミュニケーション力の向上を課題とする。

⑦ 学校に仲の良い友達がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	82	15	2	0	
教師	28	72	0	0	
保護者	62	27	5	1	5



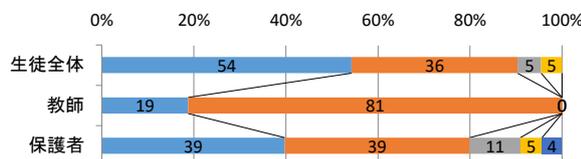
【考察】

- ・3者の回答率は昨年と同じ傾向が表れ、A回答率は3者とも伸びている。生徒、保護者のA・B回答率が高い点はとりえず満足できる。
- ・教師は、友人関係の重要性に目を向け、慎重に回答している様子が見られる。思春期の子どもにとって、友達の存在は大きい。表面的な友人関係ではなく、真の友人とはどのようなものかを考えさせ構築できる力を身に付けさせるとともに、孤立傾向にある生徒をもれなく把握し、支援していきたい。

⑧ 学校へ行くのが楽しい。

(%)

	A	B	C	D	E
生徒全体	54	36	5	5	
教師	19	81	0	0	
保護者	39	39	11	5	4

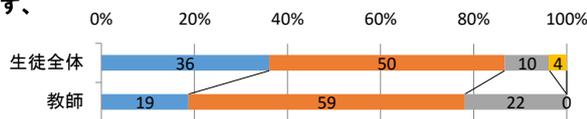


【考察】

- ・生徒のA・B回答率が本年度も90%を示したことは良好であるが、そうでないCD回答10%の存在に目を向けなければならない。保護者のCD回答率が(昨年度14%⇒16%)も見逃せない。一人の不安、不満がやがて全体の不安、不満に発展することがある。今後も「子どもが行きたい学校」「保護者が行かせたい学校」を目指して邁進していきたい。
- ・一部生徒は心を閉ざしていることや、生徒の心の状態は毎日変化していることを忘れずに生徒指導に取り組んでいきたい。

⑨ 委員会や実行委員、有志の活動など、人任せにせず、みんなのためになることを進んで行っている。

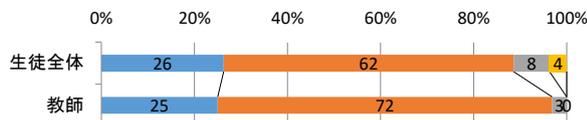
	A	B	C	D
生徒全体	36	50	10	4
教師	19	59	22	0



【考察】
 ・委員会活動や実行委員、有志活動は、子どもたちの創意工夫が生かされ、活動の幅が広がっている印象を持つ。縦割りあいさつ運動や校内清掃ピカピカ隊では、多くの有志が加わり達成感を得た。委員会の活動に新しい風を取り入れる姿勢が見られた。
 ・半面、周囲の活動の勢いに乗り切れない子は、アンケートのCD回答率から、昨年度生徒11%⇒14%、教師19%⇒22%と、その存在は増えている。
 ・仲間や教師が、背中を少し押せば・・・という子もいるはずなので、「互いに貢献し合う仲間たち」の輪に入れるよう、各種イベント、有志活動を継続していきたい。小さな達成感を大切に扱いたい。

⑩ 自分は学校で認められていると思う。

	A	B	C	D
生徒全体	26	62	8	4
教師	25	72	3	0

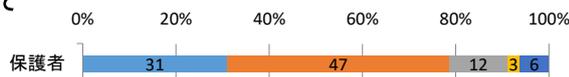


【考察】
 ・子どものAB回答率が(80%⇒85%⇒88%)と、年々伸びてきている。委員会や学年行事など、子どもの活躍の場を多様化し活性化を図った成果と考えられる。さらには、教師の観察眼の改善と、子どもを認める声掛けの改善があつたのと考えたい。
 ・しかし依然として、「目立つことをしていない、忘れ物が多い、勉強の不出来、表彰、学級役員、・・・」といった限られた狭い範囲で自己評価し劣等感を持つ子どもが存在している。その評価基準は、教師や保護者、社会が子どもたちに植え付けているといつてよいので、今後も我々の反省材料として忘れてはいけない。
 ・どの子もそれぞれの得意分野があり、努力を積み重ねている面が必ずある。登校し教室で笑顔を見せるだけでも場を和ませている。我々教師は、今後も生徒の存在そのものを認め励まし自信を持たせていきたい。あえて目立たない生徒に目を向けて、大切な存在であることを認めて伝え、自己有用感を高めさせるという視点を持ち続けなければならない。

⑪ 保護者

学校は子どもたちの活動の様子を積極的に伝えようとしている。

	A	B	C	D	E
保護者	31	47	12	3	6

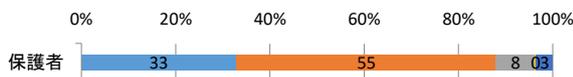


【考察】
 ・本年も、A・B回答率が81%で概ね満足できる。学年通信や諸便り、HPIによる情報公開に加え、PTA活動の充実や日常の保護者との連絡や会話の充実が図られている成果と考える。
 ・保護者が学校へ足を運ぶ機会が少ない。今後も事実に基づく積極的な情報公開を進め、学校理解を深めてもらえるように努めていきたい。
 ・せっかく配布したプリントが親に届かないという声をよく聞く。学校からも子供への働きかけを進めていきたい。

⑫ 保護者

学校が保護者に出す文書(たより、連絡等)やホームページの内容は分かりやすい。

	A	B	C	D	E
保護者	33	55	8	0	3



【考察】
 ・A・B回答率が(昨年度81%⇒78%)と80%を切ってしまった。学年通信や諸便り、HPIによる情報公開に加え、PTA活動の充実や日常の保護者との連絡や会話の充実さらに力を入れていかなければならない。
 ・「開かれた学校」を唱えても、保護者が学校へ足を運ぶ機会が少ない。今後も事実に基づく積極的な情報公開を進め、学校理解を深めてもらえるように努めなければならない。
 ・部活動の様子の公開、発信を増やしてほしいという要望があるが、意に沿えるよう努力していく。休日の活動を見学してもらうことに差しさわりは無い。安全上、職員室に声をかけてもらえれば平日でも公開は可能である。

文責 校長 渡邊宏

